

かずさ

日本ボーイスカウト
[最終号] 上総地区

39号

発行日
2023. 3. 1

発行：関口 陽市（地区委員長） 編集：運動拡充委員会（委員長 田中 秀近）

上総地区発足50周年～（新年度）うみかぜ地区へ

令和4年（2022年）度は上総地区発足50周年を迎え、11月23日には50周年記念ラリーを行いました。新年度は、千葉地区、南総地区と共に「うみかぜ地区」として新たなスタートをきるようになりました。今年度もボーイスカウトの活動は、新型コロナウイルス感染拡大のため多くの制約を受けましたが、感染対策を徹底しながら行った活動の中から報告します。

ありがとう「広報紙かずさ」

上総地区協議会 会長 上原 進

上総地区広報紙かずさ1号が昭和58年（1983年）8月に発行されて満39年を迎えました。最終号となる今号まで大勢の方々が広報委員として奉仕をされ、また各団のご協力を頂きましたことに対し感謝申し上げます。

このかずさ発行を企画された当時の広報委員長は中野宮生さん（木更津第3団）です。広報紙面はB4を二つ折りの8頁です。文面はワープロ、手書きに写真を入れ手づくりの広報紙であり味わい深いかずさであると40年前

を思い出しております。

40年の間、各団のご協力を得て紙面を作り上げて今日のかずさが発行されております。発行当時の紙面づくりは、スカウト活動に携わっているボーイスカウトの仲間とのコミュニケーションの場としての文面作りのように思えますが、今日のかずさは行政や地域社会にPRできる広報紙となっております。紙面も19号からA4判に変わり4頁又は8頁と広報紙としてスカウト仲間は勿論、地域社会にボーイス

カウト活動を理解して頂ける広報紙かずさです。

今後とも各団の皆様のご協力をいただきボーイスカウト活動の楽しさを記録し、スカウト仲間を増やし地区再編された「うみかぜ地区」が益々繁栄されることを願っております。新地区移行後従来の各地区広報紙の在り方について協議され慣れ親しんだ「かずさ」の名称は変わることになるかと思われ複雑な心境は私だけでしょうか。

かずさ第39号に寄せて

上総地区委員長 関口陽市

「上総地区発足50周年記念ラリー」等の特集として編集された、広報誌「かずさ39号」は最終号と聞きました。最初の頃の「かずさ」を探し第2号を見つけました。B5版で表題の「かずさ」は同じでした。「'84キャンプだより」の特集で1



ページに2個団で編集されています。あと写真は白黒、ワープロ、投稿者手書きの原稿です。縦書き、横書き、スケッチあり、写真あり、手作り感満載で味のあるものでした。いまの広報誌「かずさ」は、写真も原稿も読みやすい印刷物になっています。時代も変わって38年の時間差も見えます。編集者のページに「仲間を増やそう」と、囲みの中に当時の現状がありました。地区は、15個団、37隊、1249名とありました。昭和59年10月12日の発行です。現在の登録数の3倍、隊数は同じくらい、団数は7個団多く、

上総地区も最盛期でした。因みに広報委員長 福岡久士とありました。

新年度はうみかぜ地区となります。3地区22個団、登録数は1290人（12月末）。地区の範囲は、千葉県の上半分以上の広さの地区になります。

各団の指導者、保護者のみなさまのお力でビーバースカウトがローバースカウトまで続けて、自身でプロジェクトが完遂できるように育て、元気で素晴らしい活動ができるように見守りたいと思います。ご指導よろしく願いたします。

上総地区発足50周年記念ラリー

◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇ 2022.11.23・アース電機鶴舞研修センター ◇◇◇◇◇◇◇◇◇◇

各ブー
スのプ
ログラ
ム

	プログラム名	ゲームのテーマ 内容 等	担当
1	みのがすな	動体視力キムス	市原第1団
2	未来の自分へ	各自の木片ピースをつなぎ合わせてモニュメント作成	市原第3団
3	キュウジョセヨ!	おぼれている人にロープを投げて助ける	市原第5団
4	おもてなし	豚汁を作ってふるまう	市原第6団
5	すすめ五大力船	指令書の指示に従ってゲーム展開、五大力船を進める	市原第7団
6	急げ救急班	発生した怪我人を手当てし、搬送する	茂原第2団
7	世界で一つの缶バッジ	各自がデザインした缶バッジを作成	東金第1団
8	みんなで乗ってみよう	竹馬・竹ぼっくりに乗ってリレー	大網白里第1団

テーマ「かずさ50年の絆 未来につなぐスカウトの輪」

「みのがすな」

市原第1団

『通り過ぎるものを見逃すな!』令和4年11月23日に開催された上総地区50周年記念ラリー。次年度地区再編を迎え、「上総地区」として最後のイベントです。あいにくの雨模様でしたが、大変盛り上がりスカウト達も大いに楽しめた1日でした。

我々市原第1団が担当したゲームは「動体視力キムス」。

2枚の衝立を80cmぐらいの隙間を空け設置。その隙間を通るものを判



別し記憶するというゲームです。

20個のキャンプにちなんだものを用意し、隙間の間を飛ばしたのですが、子供達の目は予想以上に良く、ビーバースカウトの年代向けに解答を少し甘くしたこともあり、結果は同率順位が重なり各組とも僅差の勝負になりました。

子供達も何が出てくるのかと興味津々。非常に楽しめたようで、良い企画であったと思いました。



ヒロキ
(市原第3団ベンチャー隊副長 山本開生)

「未来の自分へ」

市原第3団

市原3団では、みらいのじぶんに
に向けたメッセージを、プレートに表
現してもらおうプログラムを実施しま
した。表現方法は自由！メッセージ
が文字だけなんてことはありません。
素晴らしい絵があったり、素晴らしい
色彩表現があったり、手紙の様な
表現があったりと、スカウトの数だ
け表現方法があって、スカウトの数



だけ夢が
あります。
「自由に
やって良
いよ！」
これほど
難しい課
題はあり
ません。
しかし、
最初こそ
迷って手
が動かないスカ
ウト達も、途中からは夢中に、楽しそ
うに、そして真剣に作成してしまし
た。

出来上がった皆さんの作品を見て

いると、すごく楽しくなってきたし、
次のステップに向かっていく力強さ
も感じました。
皆さんの作品は市原3・6団野営
場に設置しました。いつでも訪れて
くださいね。そして、「みらいのじぶ
ん」たちが、作品の前で楽しく活動
できる時がくると良いですね。
(市原3団 小坂 薫)

いると、すごく楽しくなってきたし、
次のステップに向かっていく力強さ
も感じました。

皆さんの作品は市原3・6団野営
場に設置しました。いつでも訪れて
くださいね。そして、「みらいのじぶ
ん」たちが、作品の前で楽しく活動
できる時がくると良いですね。

(市原3団 小坂 薫)



「キュウジョセヨ！」

市原第5団

ボーイスカウトで経験して身に付
けたロープワークの技術をつかって、
困っている人がいたら助けてあげたい！
と思う気持ちが前面に出てくる
プログラム『キュウジョセヨ』では、
おぼれている人に見立てたぬいぐる
みに目掛けてロープで輪を作り投げ
入れて助けるゲームをしました。

本番前に数分の練習時間を設けて
いざ本番！



本番になると
うまくいかない
スカウトも居れ
ば、安定して練
習の成果を発揮
するスカウトも
います。

でもみんな一
生懸命な姿が本
当に格好いい♪

中でも一際格
好良かったの
は、リーダーシ

ップを発揮して冷静に小さなスカ
ウトたちの面倒を見ながら、的確な助
言をしてみんなに結果を出させてい
た中学生年代のスカウト！

そんなお兄さんスカウトにあこが
れて小さいスカウトたちもこれから
切磋琢磨して成長して行ってくれる
ことを期待して止まない一コマでし
た(^^)



「おもてなし」

市原第6団

市原第6団は、スカウト、指導者、保護者計77名参加し楽しませていただきました。当団は、おもてなしを担当。寒い時期のお昼に、温かい豚汁は何よりのおもてなしです。

今回は、海外（インドネシア）からの研修生におもてなしを味わっていただくこととなりました。但し、宗教上の理由から豚肉は食べられず、鶏肉に替えて作りました。

また開催日が水曜日の祭日で前日



準備ができなため、20日に食材を分配し各家庭で切り刻み、当日搬入といたしました。

会場準備は晴天対応で進め、キャンプ場の排水修理、調理場、食事場所の清掃を実施しましたが、残念ながら雨天対応となってしまいました。施設のご好意により、食堂、和室を提供いただきコロナ感染防止ができるスペースが確保できました。あらためて感謝申し上げます。

当日の運営は、調理班、フロア一班に分け連携しスムーズにおもてなしができたと思います。特にベンチャースカウトが入場人数管理を担当しスムーズに回転できたと思います。食事後に美味しかったとの声が多く聞かれ担当団として嬉しくなりました。令和5年度は、新地区となりますが上総の絆を大切にしたいと思います。



「すすめ五大力船」

市原第7団

市原第7団では、上総地区のマークにも使用している「五大力船」をテーマに、参加スカウトが全員参加できる年代にあったゲームを展開しました。なお、五大力船とは、江戸時代～昭和初期まで房総各地から江戸に物資や人を乗せて往来していた船のことです。

まず、五大力船の出航準備からゲーム開始です。ビーバースカウトが、バラバラになった帆のマークを組み立てます。続いて、カブスカウトが、船のまわりで得意なロープ結びをすると出港準備が完了です。みこしに



載った五大力船をビーバー、カブが担ぎ、ボーイスカウトが水先案内人になり、与えられた方位角と距離をコンパスと歩測で進路を決め、目標地点に進めます。ほぼ予定の目標地点に到達できたグループのある一方で、隣のゲームエリアまで迷走するグループも現われました。スカウト

ゲームで遊ぶためには、日頃のスカウト技能訓練が大切です。

今後も上総地区のスカウトたちが自ら正しい進路を見極めて進むことが出来るよう成長を支援しましょう。

(市原第7団 小西章夫)



「急げ救急班」

茂原第2団

茂原第2団では、いざという時に役に立つ救急法を使ったゲームをしました。三角巾・副木を使って応急手当ををし、急造の救助担架を作り運搬するという、決められた時間内に出来栄を競うゲームです。応急手当をするのは、頭・腕・足のけがや足首のねんざなどです。担架には竹とロープや洋服・毛布を使いま



なかったのが少し残念でした。でも、見本を見ながら一生懸命取り組むスカウトの姿が見られました。「そなえよつねに」で日頃から練習をして、いつでも「日日の善行」ができるようにしましょう。

(茂原第2団 青木勇)



す。最初にルールやポイントの説明を聞き、応急処置をされたマネキンや担架の見本を見てから、ゲームを開始しました。ボーイスカウトが、ビーバー・カブスカウトに処置をし、作った担架に乗せて運ぶという設定でしたが、当日ボーイスカウトの参加が少なく、思うように点数が伸び



「世界で一つの缶バッジ」

東金第1団

上総地区最後のラリーの記念品として、ひとり一人が缶バッジ制作マシンを自分で操作し“世界で一つの缶バッジ”を作りました。事前に準備していた自分のデザイン、「上総風」に五大力船」の図に思い思いに色

を塗ったもの、基本となっているデザインをそのままなど、真剣に楽しく取り組み、記念になるバッジが出来上がりました。

最初は、準備した図を丸く切り抜くマシンにセットしガチャン。フィルムをかぶせ、次のマシンでバッジの上になる方を先に、その次に裏になる部分をセットしガチャン、最後に吊り下げ金具をつけて、あっという間にピカピカの缶バッジが完成しました。

ラリーには当団から、スカウト16人、指導者13人、保護者6人の合計35人が参加し、スカウトはそれぞれのブースを回って楽しみました。



ベンチャースカウト2人と指導者は、ブースで参加者への説明や支援を担当、特にベンチャースカウトのお兄さんが、優しく分かりやすくスカウトに接したことで、安全に楽しく作業ができ、完成したバッジを皆が喜んでいました。

「みんなで乗ってみよう」

大網白里第1団

「乗ってみよう」をタイトルに、竹馬と竹ぼっくりに乗って競争するゲームを実施予定でしたが、雨天でこのゲームは中止となりました。このため「参加スタンプ」押印のみを行いました。



第28回 上総地区 くまスカウト集会

2022. 9.24 ~ 25・君津亀山青少年自然の家



28回目の今回は、9月24日(土)から25日(日)の日程で君津亀山青少年自然の家を会場として開催されました。くまスカウト17人、デンコーチ1人、成人指導者等36人が参加し、3年ぶりに宿泊を伴う集会を行うことができました。

今年のテーマは「取り戻せ!われらの時間」。タイムパトロール隊の一員となって、時間を盗む灰色の者に奪われてしまった「時のかけら」を取り戻すため、様々なゲームに挑戦しました。

悪天候となった初日。重く垂れこめる雨雲のように不安げな面持ちだったくまスカウトは、竹工作やテントの設営体験を通して仲間意識を強くしていき、野外炊事では協力し合う姿勢を見せました。営火では組の仲間と笑いあい、彼らの気持ちを表すように、2日目は天気が回復。晴れ渡る秋空の中、ハイキングに出

かけ、互いに助け合いながら全員完歩しました。

開催にあたりご支援いただいた全ての人に、厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

(実行委員長 東金第1団 進士 優子)



スカウトの感想

くまスカウト集会では色々な体験をしました。中でも一番の思い出はハイキングです。途中のポイントでゲームがあり、記憶力ゲームが一番おもしろかったです。坂道が多く距

離もあって疲れたけど、一緒に歩いた友達が面白くて、元気をもらい頑張ることが出来ました。

(市原第1団 青柳 芯)

くまキャンプに参加して、違う団の人達と一緒に活動することで、いつもと違う体験ができました。ほくは、ハイキングが苦手ですが、グループのみんなと協力しながらゴールまで行けたことが良かったです。

(市原第5団 小澤 陸)

かずさ地区の同級生が集まり活動をした事はよい経験になりました。一番印象に残っている事はハイキングです。思ったより長い距離を一步步ずつ進む事でいろんな景色が見えてくるという事を実感出来たので良かったです。

(市原第5団 征矢 愛子)

別の団のくまスカウトにあって、特に市原1団の子と仲良くなりました。ハイキングで話しながら歩いて、

ご飯の時も、話して楽しかった。もう会えないんだと思うと悲しかったけど、ボーイスカウトになったら、また会えるのが楽しみです。

(市原第6団 岡本 翔平)

くまスカウト集会がありました。2日目にハイキングをしました。ハイキングのゲームの中でピタリ賞をとりました。うれしかったです。1日目にカレーを作りました。おいしかったです。おふろにも入りました。熱かったです。

(市原第6団 堀場 翔伍)

一日目は組長をきめるのとテントを出すのと組きをつくるのとカレーを作りました。組長にりっこうほして、2人でジャンケンに勝って、組長になりました。二日目はまず退所の支度とチェックとハイキングじゅんぴをして、ハイキングにバスで行き、とちゅうでおいてあるきました。

(市原第6団 堀場 瑞稀)

行く前は不安だったけれど、仲間が支えてくれたので、くま集会がとても楽しかった。野外料理での火起こしは、火がつきにくかったですが、火をつける責任を感じました。みんなで食べるカレーはとてもおいしかったです。これからも一緒に活動したいと思います。灰色の者から、楽しい時間が取り戻せてうれしいです。

(市原第6団 宮川 樹)

私は今回他の団のメンバーといろいろなことを体験できて、とても楽しかった。初めての組長 テント張り、火起こし、国旗けいようなどを体験しました。特に思い出に残ったことは、雨が降って屋外でできなかったキャンプファイアです。本当は屋外でみんなと楽しみたかった。テントを張るのは初めてだったけど、引



きとけ結びを使ったりして、上手にはできなかったのですが、練習しようと思いました。これからの活動でも、いっしょうけん命に取り組みたいと思いました。

(市原第6団 田中 祐衣)

くまスカウト集会に参加して、お互いに初めて会う人とも協力すれば仲良く楽しく過ごせることを初めてしりました。このことを活かして、これからもたくさんの人と仲よくなっていきたいです。

(市原第6団 片倉 一桜)

私は組の人と仲良くなり、友達ができて色々な事を教えてくれました。上進してもまた一緒に活動したいです。そういう風に他の隊の人とつながりを持って自分の世界が広がったと思います。参加して良かったです。

(市原第7団 青木 万穂)

くま集会で心に残った事は、色々なくまスカウトの仲間に出会え、2日間過ごせた事だ。その中でもハイキングはつらかったがとても楽しかった。理由は途中にあったゲームを皆で協力して解き、自然にふれ合いながら歩くことができたからだ。

(市原第7団 石坂 こころ)

私は最初、知らない人と1日過ごして「うまくやっけていけるかな」と思いました。しかし、話したりすることで「この人はいい人なんだな」と思いました。仲間と協力する事は大切だと気付きました。

(市原第7団 林 栞愛)

ぼくが一番楽しかった活動はハイキングです。昆布おにぎりや鮭おにぎりを皆で山の展望台みたいなところで食べました。理由はとても風が気持ちよくて、その中でのおにぎりはつかれた気持ちを吹き飛ばす事ができたからです。

(市原第7団 萩野 怜)

ぼくは、今回のキャンプで色々なことを経験しました。初めて会う他の団のくまスカウトと仲良しになれるか不安でしたが、ゲームとかハイキングとか料理をして、少しずつ仲良くなれました。ぼくの一番の思い出になっているのは、みんなでやった「ロックマイソウル」と「バナナ」が楽しかったことです。

(茂原第2団 吉野 佑司)

9月24日くまスカウトのキャンプに行きました。ぼくは開会式で「カブスカウトは、すすんでよいことをします」のさだめの言葉を言いました。みなさんも旗の持ち方と、さだめを覚えておくとよいと思います。

(東金第1団 中村 満希)

まず初めに組の名前を決めました。2組は『はやぶさ』に決まりました。2日目のハイキングでは、みんなで協力して1位を取る事ができました。キャンドルファイアのスタンプを頑張って決めたり、カレー作りをしたり、良い思い出ができました。とても楽しかったです。

(東金第1団 廣田 琉衣)



2022. 11. 23 上総地区発足 50 周年記念ラリー

【編集後記】千葉県連盟の方針に基づいて令和5年度から地区再編となり、上総地区は千葉地区、南総地区と一緒に「うみかぜ地区」として新たなスタートをきることになりました。このため「かずさ」は39号で

最終となりました。地区事業内容、各団の状況報告等、絆を深めるための諸々の情報が「かずさ」で提供され、最近では親しみやすい「4コマ漫画」も掲載し、内容の充実も図られました。そのような状況で最終号と

なるのは残念に思います。これまで原稿提供や編集に関わられた多くの方々、そして読者の皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内にはボーイスカウトの86の団があり、4,421人（令和4年12月現在）が活動しています。また、県内を11地区に分け、我が上総地区もこの11の地区の一つで、上総地区には8個の団が所属していました。令和5年度からは千葉地区、南総地区と共に、新たな「うみかぜ地区」となります。

団名	活動地域	入団等問合せ先	メールアドレス
市原第1団	市原市八幡宿、五井周辺	田中 秀近	h2-n-h-y@ksf.biglobe.ne.jp
市原第3団	市原市国分寺台周辺	楠瀬 順子	ichihara3boyscout@gmail.com
市原第5団	市原市牛久周辺	山内 憲章	nori7k2tgu@hotmail.co.jp
市原第6団	市原市辰巳台 ちはら台周辺	齋藤 敏子	tosaito-1315bn@outlook.jp
市原第7団	市原市姉崎周辺	菊池 由紀	yuki-mii-k@outlook.jp
茂原第2団	茂原市、長生郡周辺	青木 勇	aoki-isamu@nifty.com
東金第1団	東金市、山武市、山武郡周辺	山下 すみ江	s_yamashit@r6.dion.ne.jp
大網白里第1団	大網白里市周辺	奥貫 誠	okunuki@abox.so-net.ne.jp

<http://bs-kazusa.jp/>